

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校学区内には、ラムサール条約で指定されている蕪栗沼や、日本の国蝶であるオオムラサキが生息している加護坊山などがあり、自然環境にめぐまれている。また、自然との共生の中で水稻の栽培を進めている「冬水田んぼ」や、減少しつつあるメダカを飼育し増やそうと取り組んでいる「メダカの郷」などがあり、生物の多様性への係わりが深い地域でもある。このような地域の特性を生かし本校では、環境教育を推進している。

本年度は、環境教育の一環として、①環境講話の実施、②「グリーンウェーブ」への参加、③ビオトープの保全・管理などに取り組んだ。

活動の実際

I 環境講話の実施 (第1学年生徒95名)

1. 日時 平成27年5月20日(水) 3・4校時
2. 場所 田尻中学校体育館
3. ねらい
 - ・地球温暖化などの地球規模の環境問題に関心を持たせ、自然や環境を保全する意義への理解を深めさせる。
 - ・ふるさとの自然を愛し、住みよい生活環境を築こうとする心情と態度を育成する。
4. 講師 大崎市産業政策課 鈴木 耕平 氏
5. 演題 「ラムサール条約の保全と活用」
～化女沼と蕪栗沼・周辺水田の取り組み～



6. 生徒の感想

- ・ラムサール条約の成り立ちや課題などが分かりました。私は冬にマガンの群れが飛ぶのを見られるのは当たり前の事だと思っていましたが、これは宮城県だけだということにとっても驚きました。これから蕪栗沼を大切にしようと思いました。
- ・私は、蕪栗沼や化女沼が、ガンがたくさん来るので、ラムサール条約に登録されていることを知っていましたが、そのラムサール条約がどんなものなのかとか、ガンのことなどは、あまり知らなかったもので、たくさんの新しい知識を得ることができたのでよかったです。
- ・蕪栗沼や化女沼と自然のしくみについて教えて頂き、改めて自然を大切にしなければならないことがわかりました。これからは故郷の大崎市を大事にしていきたいと思いました。

II グリーンウェーブへの参加

1. 目的 国連の生物多様性条約事務局が企画している「グリーン・ウェーブ2015」に参加することにより、地球環境についてグローバルな視野を持たせると共に、地域自然保全活動への興味・関心を深めさせる。
2. 日時 平成27年5月22日(金)
9:45～10:35
3. 場所 大崎市立田尻中学校
校舎前花壇
4. 参加生徒 第1学年生徒95名
5. 指導計画
 - 5月15日(金) 目的, 主旨, 当日の活動についてなど事前全体指導(6校時)
 - 5月22日(金) 当日(開会式・ヒマワリの種植え・マリーゴールドの苗植え)



5月22日（金） 体験をもとに自然保護・環境保全のためにできる努力についての感想文を書かせる。（5校時）

6. 生徒の感想

- ・ グリーンウエーブは、草花や森林を大切に、地球の環境を守るために行うものです。僕は今日のグリーンウエーブで、もっと植物を大切にしなければならないということ学びました。
- ・ 今日、グリーンウエーブに参加して、緑の大切さを感じました。私はマリーゴールドの苗植えをしました。水やりもしっかりしました。これからは水まきをしっかりとし、花をたくさんを咲かせたいです。
- ・ 今日のグリーンウエーブで改めて、植物の大切さがわかりました。植えたのはヒマワリです。早く大きくなってほしいなと思います。今日の活動をみんなでできて楽しかったです。
- ・ 1年生全員でグリーンウエーブに参加できてよかったです。僕はヒマワリの種を植えました。硬い土を掘るのが大変でしたが、頑張りました。今日の体験をきっかけとして、今後も緑を植え続け、緑を大切にしていきたいと思いました。グリーンウエーブはとてもいい体験でした。そしてヒマワリも元気に育ててほしいです。

Ⅲ ビオトープの保全・管理

本校では、環境教育の一環として、校地内にビオトープを形成している。ねらいは、自然と身近に触れあえる場の提供、微生物の育成と観察、生態系の教材化などである。

ビオトープとは本来、人の手をかけずに自然の状態を保つべきであるが、存続させるために、保水をしたり、増えすぎる水草を間引いたり、入り込む土砂を防いだりするなどの保全・管理を行っている。



平成21年5月



平成23年5月



平成26年2月

成果と課題

- ・ 成果として、生徒は、地域の環境保全に携わる方の話を聞いたり、実際に体験したりすることによって、地域の自然環境のすばらしさを知ることができ、環境を保全していくことの大切さを学ぶことができた。また、自分たちの生活と地域環境との関わりを意識することができた。
- ・ 課題としては、今後、さらに発展させ、身近な環境問題に関心を持ち主体的に解決に取り組むことができたり、環境保全に関する知識・技能や思考力・判断力を高めさせたりするような手立てを講じていくことである。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）